

俺たち 文化系プロレス DDT

プロレスで解決しようみたいなの、んな訳ねえから。



監督 マッスル坂井 松江哲明

音楽 ジム・オルーク

マッスル坂井 大家健 HARASHIMA 男色ディーノ

高木三四郎 鶴見亜門 KUDO 伊橋剛太 今成夢人

棚橋弘至 小松洋平

製作総指揮:高木三四郎|撮影:今成夢人、稲田亮平、中村祐太郎、松江哲明|編集:今井大介|整音:山本タカアキ

助監督:今成夢人|編集助手:小守真由美|カラリスト:田巻源太|タイトルデザイン:小林友

配給:ライブ・ビューイング・ジャパン|宣伝:SPOTTED PRODUCTIONS

カラー|16:9|5.1ch|74分 © 2016 DDTプロレスリング

大人になりきれない男たちのイタくてちょっと切ない青春ドキュメント



それぞれ違う理由でリングに上がり続ける男たち。 マッスル坂井&松江哲明のタッグが照射する、 長年に渡る文化系レスラーたちの友情物語。

好 きなことだけ続けて生きていきたい
思っていたけど、そうはいかないこと
をだんだん知って、それでも続けることの
キツさとほんの少しの楽しさをDDTを通して
見つけました。アラフォーになったからこそ
作れたドキュメンタリーです。

—— 松江哲明

フ ロレスの本質は「熱狂」にあるとずっと信じて、ひたすら生
産性の低いことを繰り返してきました。焦って、もがいて、
ひねりだして、それでも出てこないアイデアとのたたかきが、僕に
とってのライバルみたいな存在だったんだ、この映画を通し
てなんとなく気づくことができました。誰ともたたかっていないけ
ど、何かとはたたかっているこの感じ。松江監督とのタッグで、僕
にとって理想のプロレスをかたちにしてみることができました。

—— マッスル坂井



*DDTとは？

「Dramatic Dream Team」の略。1997年に現・社長兼レスラー
の高木三四郎を中心に、たった3人で旗揚げされたプロレス団
体だ。草創期には専門誌に取り上げられることも少ない弱小
団体だったが、体育会的な発想が根強いプロレス界において、
文化系的な発想力で大胆にエンタテインメント要素を持ち込
むDDTのスタイルは徐々に観客の支持を広げていき、日本武
道館、両国国技館でビッグマッチを開催するまでに成長。そし
て2017年には、さいたまスーパーアリーナへの進出が決定して
いる。現在のプロレスブームの一翼を担う団体といっても過言
ではない。

2015年11月17日

DDT後楽園ホール大会のメインイベントで、DDTのエース・
HARASHIMAと、新日本プロレスのエースにして、“100年
に1人の逸材”とも呼ばれる棚橋弘至がタッグで対戦した。こ
の試合は、男色ディーノとスーパー・ササダンゴ・マシン、大家
健の3人によるDDT内ユニット「#大家帝国」が、同団体の
人気投票（『DDTドラマティック総選挙2015』）のユニット部
門で第1位を獲得したことにより実現したのだった。賞品とし
てユニット興行権を手に入れた彼らは、2010年にいったん幕
を閉じたマッスル坂井（スーパー・ササダンゴ・マシン）による
プロレス興行「マッスル」の復活と、8月にDDT両国大会で
一度闘い、しこりを残したHARASHIMAと棚橋の再戦を訴
えたのである。それは、仲間であるHARASHIMAへの思い
の証しであるとともに、それぞれが長年、DDTのレスラーとし
て培ってきた意地と覚悟の表明でもあった。

同時に、そこに至るDDTの歴史は、高木のもとに結集した

個性豊かな才能たちの賜物でもあった。デビュー時は子供向
けマスクマンだったHARASHIMA、男色殺法を駆使する人
気者・男色ディーノ、引退して実家の金型工場に就職したもの
のパートタイムで復活したマッスル坂井、ディーノをして“最も
棚橋の知らないプロレスをする男”と言わしめる大家健——。
しかし、どこまでいっても立ちはだかるのが、メジャー・プ
ロレスと人生の壁。はたしてプロレスで物事は解決するのか？
やっぱりそんな訳はないのか？ 彼らはそれぞれの思惑を抱え
ながら、後楽園ホールのリングへと向かう。

音楽はヴェルナー・ヘルツォーク、若松孝二らの映画音楽
を手がけて来たジム・オルークが担当し、監督は本作の出演
者であり、前作『プロレスキャンボール』（2014）もスマッシュ
ヒットした鬼才・マッスル坂井と、かつて坂井主宰の「マッス
ル」によってプロレスの魅力に目覚めたという日本を代表する
ドキュメンタリー作家・松江哲明。奇しくも同じ歳である2つ
の才能がタッグを組むことで、大人になりきれない男たちの、
イタくて切ない青春ドキュメンタリーがここに誕生した。

text: 九龍ジョー



11.26 ±

全国順次ロードショー！

【東京】新宿バルト9 ★7日間連日舞台挨拶決定！（11.26-12.2）

【愛知】イオンシネマワンダー 【新潟】イオンシネマ新潟南 【大阪】シネマート心斎橋

@obpw2016

鑑賞料金

■舞台挨拶上映：¥2,000（税込）※各種割引なし／■通常上映：¥1,800（税込）

※上記4館以外の劇場におきましては、上映時期、劇場により料金異なる場合がございます。

◆上映およびチケット発売日程等は映画公式ホームページにて
<http://liveviewing.jp/obpw2016/>